

5月23日～25日に試験焼却を実施しました

試験焼却の結果

飛灰への放射性物質の濃縮が当初想定していたとおりであり、その値も市が定めた管理目標を大幅に下回ることが確認されました。併せて、日明積出基地や焼却工場の敷地境界、災害廃棄物搬出車両の放射線量も自然界と同レベルでした。

また、煙突からの排ガスなど、環境中に排出される項目は全て不検出であり、人体や農水産物への影響はなく、市民の皆さまに安心していただける結果だと考えています。

※受入れ対象物…宮城県石巻市の災害廃棄物(木くずを中心とした可燃物80トン、放射能濃度8ベクレル/kg)

※受入れ焼却工場及び焼却日程…日明工場(5月23日～24日)、新門司工場(5月24日～25日)

試験焼却における放射線量の測定結果

	試験焼却前	試験焼却中
日明積出基地(保管施設)	0.07(0.05～0.09)	0.07(0.05～0.10)
日明工場	0.07(0.05～0.07)	0.06(0.05～0.07)
新門司工場	0.07(0.06～0.08)	0.07(0.06～0.08)

※単位はマイクロシーベルト/時です。4ページ「日常生活で受ける放射線」の単位ミリシーベルトの1/1000です。

※測定結果は各施設の敷地境界の4地点の平均値を記載しています。

※()内は、敷地境界4地点での測定値の範囲。※「試験焼却前」の測定結果は5月16日～21日の平均値です。

試験焼却における放射能濃度の測定結果

		試験焼却結果	北九州市の管理目標	国の定める基準
日明工場	排ガス(煙突出口)	不検出	不検出	$\frac{\text{セシウム134の濃度}}{20(\text{ベクレル}/\text{m}^3)} + \frac{\text{セシウム137の濃度}}{30(\text{ベクレル}/\text{m}^3)} \leq 1$ ★
	処理水(工場排水)	不検出	10ベクレル/ℓ以下	$\frac{\text{セシウム134の濃度}}{60(\text{ベクレル}/\ell)} + \frac{\text{セシウム137の濃度}}{90(\text{ベクレル}/\ell)} \leq 1$ ★
	主灰(焼却灰)	不検出	100ベクレル/kg以下	8,000ベクレル/kg以下
	飛灰(ばいじん)	30ベクレル/kg	330ベクレル/kg以下	8,000ベクレル/kg以下
新門司工場	排ガス(煙突出口)	不検出	不検出	$\frac{\text{セシウム134の濃度}}{20(\text{ベクレル}/\text{m}^3)} + \frac{\text{セシウム137の濃度}}{30(\text{ベクレル}/\text{m}^3)} \leq 1$ ★
	スラグ及びメタル	不検出	100ベクレル/kg以下	8,000ベクレル/kg以下◇
	飛灰(ばいじん)	19ベクレル/kg	330ベクレル/kg以下	8,000ベクレル/kg以下

※「北九州市の管理目標」は、市が市民の安心を得るための目安として独自に設定した数値です。

※「不検出」とは、検出下限値未滿を表します。

★＝セシウム134及びセシウム137それぞれの濃度限度に対する割合を算出し、その和が1以下となる濃度です。

◇＝リサイクルする場合は製品として100ベクレル/kg以下です。

本市では、試験焼却の結果及び具体的な受入れの検討を進めるため5月31日に「第2回災害廃棄物の受入に関する検討会」を開催しました。主な意見は次のとおりです。

- 1, 2回の検討会を通して市が示した災害廃棄物の受入れ方法の手順どおりに実施すれば、あまり心配しなくても良いことが確認できた。
- 今後も市民に分かりやすく情報提供をすべき。市民の不安を取り除くために、説明会などをもっと実施していく必要がある。



5月31日に開催された検討会